

ヨーロッパ文化遺産研究の最前線

シヨンコイ・ガーボル 奥村 弘 根本峻瑠 市原晋平 加藤明恵 著・訳

令和5年4月発売

EU 委員会の活動を基盤とした報告書 *Innovation in Cultural Heritage Research* 『文化遺産研究の革新に向けて』の日本語版と、日本の読者に対して、その内容について理解を進めるための諸論考、座談会の記録などをあわせて収録。

社会の基礎として歴史文化遺産が重要な意味を持つという視座は、日本の自然災害時における実践的な研究と多くの共通する要素を持つものであり、現代社会において、世界各地で、コミュニティレベルでの歴史文化の継承と新たな創造が課題となっていることを端的にしめす。本書が、多様な歴史研究者、歴史文化関係者と市民によるネットワーク形成の一助となることを期待する。

ヨーロッパ文化遺産研究の
最前線

著・訳
シヨンコイ・ガーボル
奥村 弘 根本峻瑠 市原晋平 加藤明恵



神戸大学出版会

本書の成り立ちと構成について 奥村弘

解題：現在主義、レジーム、「遺産」 市原晋平

—シヨンコイ・ガーボルの「文化遺産」論をより深く理解するために—

日本の読者に向けて シヨンコイ・ガーボル

文化遺産研究の革新に向けて

—統合的欧州研究政策のために—

欧州委員会 シヨンコイ・ガーボル、タニヤ・ヴァフティカリ 著

1 序論：欧州の文化遺産経験

- 1.1 欧州の文化遺産の時間的側面
- 1.2 欧州の文化遺産の空間的側面
- 1.3 文化遺産のコミュニティ・関係者・ガバナンス

2 文化遺産の現状と背景

- 2.1 文化遺産と学界
- 2.2 政治と行政：世界的傾向
- 2.3 行政による欧州文化遺産の制度化：過去、現在、近未来

3 現在の欧州文化遺産に関する事例的研究方法とその結果

- 3.1 欧州の文化遺産の空間的側面
- 3.2 欧州文化遺産の時間的側面
- 3.3 文化遺産コミュニティとガバナンス

4 欧州文化遺産研究のパースペクティヴ

- 4.1 欧州文化遺産の現在と近未来
- 4.2 現在の文化遺産の実践的課題
- 4.3 現在の欧州文化遺産に関する研究課題

付録

- 付録1 14 の計画の概要
- 付録2 中世以来の歴史を持つ木造建築の町ラウマ旧市街（フィンランド）保全の文脈から見た3つの文化遺産レジーム
- 付録3 文化的景観としての欧州遺産認定遺跡
- 著者紹介
- 欧州連合についてもっと知りたい方へ

「文化遺産」と歴史学の関係の定義 シヨンコイ・ガーボル

EU・日本の歴史と文化遺産に関する座談会

1. 文化遺産概念を中心に

EU・日本の歴史と文化遺産に関する座談会

2. EU における文化遺産の意義を中心に

あとがき

A5判並製・168ページ 定価 1,760円(税込)

発行：神戸大学出版会 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学社会科学系図書館内 TEL078-803-7315 FAX078-803-7320

発売：神戸新聞総合出版センター 神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル9F TEL078-362-7138 FAX078-361-7552